

山形県教育委員協議会の概要

1 日 時

令和7年9月11日（木）14時54分～15時20分

2 場 所

山形県庁舎教育委員室

3 意見交換テーマ

教育現場におけるデジタル技術の活用について

4 主な発言要旨

- ◇ デジタル技術の適切な活用は、教職員の業務負担の軽減につながることに加え、研修等を通じて年々ICTを活用できる教職員が増えていることから、子ども達の個別最適な学びにつながることを期待される。（和田委員）
- ◇ デジタル技術の活用方法として、宿題が完了した際に子ども達から教職員への報告など、連絡手段の一つとしての使い方が見受けられるが、子ども達の学力向上や教職員の負担軽減につながるような活用を促進していくことが望ましいと考える。（和田委員）
- ◇ 教育現場におけるデジタル技術の活用に当たっては、タブレットなどのICT機器のハード面の導入だけでなく、子ども達がどの単元でつまづいているかを見える化したり、学習の習熟度を上げるために効果的に使うなど、ソフト面、使い方にも配慮する必要があると感じる。加えて、健康観察などにも活用することで、言葉ではなかなか言えないことも伝えることができ、コミュニケーションの幅が広がるのではないかと。（丹治委員）
- ◇ 県立高校における遠隔授業の取り組みは、大雪等により通学が困難な場合や、コロナ感染症等で学校に登校できない場合でも、オンラインで授業を受けられるなど、子ども達の多様な学びのニーズに応えることができ、これが学校の特色や魅力に結び付くことを期待している。（丹治委員）
- ◇ デジタル技術の活用は、教職員の負担軽減には意義を持つものと思うが、子ども達の記憶の定着に効果を発揮するかどうか懸念している。タブレット等を活用した学習が、これまでの学習方法と比較してどのような違いが出てくるのか、状況を注視していく必要があると考える。（手塚委員）
- ◇ 子ども達の生成AIの活用については、自分の考えを持たず、生成AIが出した答えをそのまま受け入れてしまうことになり、思考力の低下につながってしまうのではないかと懸念している。自分の考えを持ったうえで、生成AIに質問するという活用の仕方が必要と考える。（手塚委員）

- ◇ 生成 AI に対して正しく質問を投げかけないと、誤った答えが返ってくることがある。生成 AI にはこのようなデメリットもあるということも子ども達に教え、それを理解したうえで活用することが必要であると考える。(小関委員)
- ◇ 生成 AI の活用方法の一例として、まず自分で考え、それを掘り下げる際に活用することで、抽象的な表現が具体的な表現となり、より説得力を持つ文章になるという事例もある。生成 AI の活用に当たっては、このような活用方法をさらに広めていくことが効果的と考える。(小関委員)
- ◇ デジタル技術の活用について、「学ぶ側」と「教える側」の双方の視点から考えた場合、「学ぶ側」は、授業の動画を繰り返し見る環境を整えてもらうことで、知識の定着や学力の向上に効果が発揮されるものと考えられる。一方で、その動画の撮影や編集、そして管理・更新は「教える側」にとって大きな労力、負担になると思われるが、一度作成すれば、編集・加工は容易であり、教職員の負担軽減にもつながることから、取り組む価値は十分あるのではないか。(工藤委員)